

INFORMATION RELEASE

ミサワホーム株式会社 〒163-0833 東京都新宿区西新宿 2-4-1 Tel.03(3349)8088 (広報直通)

2017年6月28日

ミサワホームグループの社員が 第59次日本南極地域観測隊に参加

- 越冬隊に1名、夏隊に2名が選任、参加隊員数は延べ21名に
- ミサワホームグループからは10期連続で観測隊に参加
- 一昨年ミサワホームが受注した「基本観測棟」がいよいよ完成へ

ミサワホームグループの社員である佐藤啓之、後閑洋希、坂下大輔の3名が、第59次日本南極地域観測隊員に選任されました。3名は大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所（以下、極地研究所）の所員として、11月上旬に南極昭和基地に向けて出発します。今回の選任により当社グループからの日本南極地域観測隊への参加隊員数は延べ21名、第50次から10期連続の参加となります。

南極地域観測は、南極条約に基づき、国際協力のもと国が実施する事業の一つです。超高層物理学、気象学、雪氷学、生物学、地学など広範囲の分野で研究活動が続けられており、今年1月には南極昭和基地開設60周年を迎えました。観測隊は研究観測や定常観測などを担当する「観測系」隊員と基地の設備や生活の維持を担当する「設営系」隊員で構成されています。限られた人数で観測から日常生活までを分担するため、隊員はいずれも各分野の専門家であることが求められます。

このたび当社グループから第59次南極地域観測越冬隊に佐藤啓之、同夏隊に後閑洋希と坂下大輔がそれぞれ設営系隊員として選任されました。坂下は第51・52次夏隊、第55次越冬隊としても南極で活動しており、今回が4度目の参加となります。3名は、一昨年ミサワホームが受注し、建設を進めている「基本観測棟」の組立の最終工程と室内の造作を担当し、建物を完成させる予定です。また、居住棟など既存の建物のメンテナンスも実施します。

同観測隊は11月下旬に日本を出発し、オーストラリアのフリーマントルで南極観測船「しらせ」に乗船後、昭和基地に向かいますが、3名は先遣隊として11月上旬に日本を出発し、航空機を乗り継いで11月中旬ごろ南極昭和基地に入る予定です。越冬隊に選ばれた佐藤は現在活動中の第58次越冬隊と業務を交代して、2019年春に帰国予定です。後閑と坂下は、現地で約3カ月間の活動後、第58次越冬隊とともに2018年春に帰国予定です。現在当社グループから岡本裕司が第58次越冬隊員として参加しているため、今年11月上旬には当社グループの社員4名が南極昭和基地に揃い、隊員活動を行うことになります。

ミサワホームは今後も、専門技術を有する社員の派遣等を通じて、南極観測活動に協力していきます。今回観測隊員に選ばれた3名は当社グループの代表として、また南極地域観測におけるナショナルチームの一員としての誇りを持って無事に任務を遂行してくれることを期待しています。

■ 南極とミサワホーム

ミサワホームは、1968年の「第10居住棟」以降、日本南極地域観測隊の活動や生活を支える建物を受注し、その実績は累計36棟、延床面積約5,900㎡になります。建物に採用されている木質接着複合パネルは、徹底した品質管理体制の下、外装、断熱材、内装があらかじめ艱装され、南極昭和基地での夏場の限られた建設期間で、建築経験のない隊員でも短工期で施工でき、厳しい南極の気候に耐え続ける性能が特長です。

建物の受注に加え、南極の観測活動に貢献すべく、専門技術を有する社員が極地研究所へ出向し、設営系隊員として協力しています。昭和基地のシンボリック建物となっている「管理棟」や「第1・第2居住棟」、大型建築物「自然エネルギー棟」などは、当社グループから参加した隊員が中心となり、専門分野の異なる隊員同士が協力して建設しました。

建物受注や隊員派遣以外の分野では、南極や観測隊の活動をより多くの方々にお知らせし、身近に感じてもらうことを目的としたインターネットコンテンツ「南極の歩き方」をミサワホームのWebサイト内に開設。観測活動の内容をはじめ、南極の自然現象や未踏の地を切り開いた南極探検家など、南極に関する幅広い情報を紹介しています。

また、全国の学校生活協同組合や教育関連団体と連携し、極地研究所の協力を得て、南極地域観測隊に参加した社員らが講師となり、小・中学校を中心に授業を実施する教育支援プログラム「南極クラス」を2011年から開催しています。生徒には、遙か遠くの南極の世界を身近に感じてもらうとともに、将来の夢や希望を持つこと、お互いに支えあいミッションを達成していくチームワークの大切さなどを伝えています。昨年度までに、延べ969校で11万人以上を対象に開催しており、今年度も全国で実施中です。

他にも、「国立極地研究所南極・北極科学館」や「名古屋市科学館」において、南極昭和基地の居住棟のカットモデルを出展協力するなど、南極の観測活動の普及・啓発に協力しています。

■ 隊員プロフィール

○佐藤 啓之（さとう ひろゆき）

1990年2月、札幌ミサワ建設株式会社に入社し、大工職として住宅の施工に従事。2017年4月からミサワホーム北海道株式会社の建設部にて、施工課長として勤務。

○後閑 洋希（ごかん ひろき）

2001年3月、栃木ミサワホーム株式会社に入社。住宅営業を経て、2003年から同社の建設部にて、現場管理者として住宅の施工に従事。

○坂下 大輔（さかした だいすけ）

1995年に北陸ミサワホーム株式会社が主催する「北陸建築技能訓練校」にて施工技術を学ぶ。その後同社の建設部にて、住宅の施工に従事。第51次及び第52次の南極地域観測夏隊員、第55次越冬隊員として参加。その後、隊員経験を活かし、南極に関する幅広い知識や、南極という極地で鍛えられた先端技術が日本の住まいづくりにも活かされていることなどを積極的に情報発信。

以上

この件に関するお問い合わせ先

ミサワホーム(株) 経営企画部 コーポレートコミュニケーション課 中田義規 佐野遥香

TEL : 03-3349-8088 / FAX : 03-5381-7838

MAIL : Haruka.Sano@home.misawa.co.jp